



SDGsについて考える

国連にて各国政府の合意のもとに採択された、「すべての人々にとってよりよい世界をつくる」ことを目指す「持続可能な開発目標」(SDGs)への取り組みが、2016年1月から始まりました。その実現に向けて、日本をはじめとする世界各国が具体的な取り組みを検討しています。SDGsの取り組みには企業の参加も求められています。そこで今号ではSDGsの概要と、企業として取り組む意義について説明します。

13 CLIMATE ACTION



15 LIFE ON LAND



木とともに未来を拓く

紙季折々

しき※ありあり

日本製紙グループ
環境・社会コミュニケーション誌
Vol.24

ちょっと気になる紙の話

有馬 利男さん (グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事)



ありま・としお

1967年国際基督教大学教養学部卒業。1967年富士ゼロックス(株)入社。1996年同社常務取締役、Xerox International Partners社長兼CEOを経て、2002年富士ゼロックス(株)代表取締役社長へ就任。2007年取締役相談役、2008年より、国連グローバル・コンパクト・ボードメンバー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事。

企業が協働し、人間の顔をしたグローバル市場をつくろう。

有馬利男さんは、SDGsをはじめとする国連の掲げる目標に対し企業の関わりを推進する、国連グローバル・コンパクトのボードメンバーおよびグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事としてご活躍されています。今回は、国連グローバル・コンパクトの役割とSDGsとの関わり、そして、ビジネス活動に欠かせない紙について語っていただきました。

1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)で、当時のアナン国連事務総長は、世界のビジネスリーダーたちにある問題提起をしました。それは、冷戦が終了し、地球規模で経済が拡大していく中で、環境問題や人権問題など、ビジネスのグローバル化により浮上した諸問題を解決していくべきではないかという呼びかけでした。これは単に効率を追求するのではなく、社会の健全な発展を目指し、「人間の顔をしたグローバル市場」をつくろうという、国連グローバル・コンパクト(UNGC)の源流となる価値そのものでした。

翌年7月には、UNGCが正式に発足。UNGCの最大の特徴は、経営者自身が「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則の支持を宣言する必要がある点です。そこには経営にCSRを取り入れ、企業の力で社会課題を解決していくという理念があります。日本企業がUNGCに署名し始めたのは2001年になってからです。2002年、私は富士ゼロックスの社長を務めていましたが、このUNGCの理念に共感し、同年9月に署名を決断しました。その時点では現在のグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)のようなローカルネットワークはありませんでした。そこで署名企業同士が情報交換や勉強会などで切磋琢磨できるプラットフォームとして、2003年に日本におけるローカルネットワークが発足しました。こうした活動を経て、2007年の社長退任後は、UNGCのボードメンバーを務めています。

現在では世界約160カ国で13,000を超える団体が、UNGCの4分野・10原則を支持し、その実践を進めています。活動の中には、国連の掲げる目標も含まれており、SDGsに関しては、参加企業に意見を求め、策定過程で

はGCNJも議論に参加しました。また他の組織と協働し、具体的な企業の取り組み方を示すSDGsの企業行動指針(SDG Compass)の日本語版を作成しました。GCNJのSDGs分科会では、参加企業各社が勉強会を開き、各社の活動をSDGsの17のゴールに紐付け、活動を再評価し、活動計画をつくっています。参加企業の中にはグループ会社などにも紐付けを広げたり、経営計画にSDGsへの関わりを組み込む動きも見られます。このような活動が広がることで、持続可能な未来が実現できると私は確信しています。

さて少し話題は変わりますが、富士ゼロックス在職時の1970年代には、後にパソコン開発の一端を担う、ワークステーションの開発なども行っていました。その後、パソコンやインターネットが普及し、今のICTネットワークによる情報化社会へと大発展していきました。その過程でペーパーレスが進むと言われていましたが、例えばオフィスでは現在でも紙は情報伝達ツールとして多く使用されています。この理由としては無駄な紙使用を減らそうという流れがある一方で、過去に比較して扱う情報量が格段に増えたため、結果として紙の使用量が増えたからなのではないでしょうか。

今後は、紙の使用量を単に減らそうというよりも、紙使用量の最適化の流れが進むと思います。また、紙の特性やよさを最大限に発揮させる新たな機能を考えていくというのも面白いのではないのでしょうか。

紙世代の私には、プリントされた紙を見て、内容を理解し、重要な箇所にマークする、このような作業ができる紙が、仕事を進めていく上でしっかりときます。またデジタル化が進む新聞や書籍についても、紙ならではの風合いに慣れ親しみ読んでいます。

SDGsのゴール12に「持続可能な生産消費形態を確保する」があります。目的に合った紙の使い方をを選び、紙のよさを最大限に引き出す、そして使用された紙はリサイクルに回す、というのがSDGsの課題解決につながると思います。



国連グローバル・コンパクト ボード・ミーティングにて

「丸沼高原 植樹2016」を開催

日本製紙グループは、5月21日(土)に、「丸沼高原 植樹2016」を開催しました。当日は春の爽やかな晴天の下、今年も当社グループおよび日本コカ・コーラ社から約120人の参加者が、土地本来の5種の苗木約1,000本を、日光国立公園内に位置する丸沼高原(菅沼社有林内)に植えました。



1本1本ていねいに苗木を植えました



植樹を行う大勢の参加者

UNGCで中心的な役割を担う、有馬氏にお話を伺いました。このUNGCに日本製紙は2004年に署名しています。昨今の世界情勢からも、「人間の顔」をし、社会の健全な発展を目指したグローバル化の重要性を改めて感じました。今回特集したSDGsは、すべての人々に対してよりよい世界をつくるための持続的な開発目標を掲げたものです。世界が目指す方向性と企業に求められる役割について、今号を通じてお伝えできれば幸いです。(藤田啓子)

お問い合わせ先

日本製紙株式会社 CSR本部 CSR部 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6(御茶ノ水ソラシティ) TEL: 03-6665-1015
ホームページ: <http://www.nipponpapergroup.com> お問い合わせ: <http://www.nipponpapergroup.com/inquire/>



本誌は間伐に寄与する紙を使用しています。2016.7.19

1. SDGsの概要

SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）は、地球が直面している経済、社会および環境に関する大きな課題に対し、2030年までによりよい世界を実現するための優先課題を明らかにしたものです。

● MDGsからSDGsへ

SDGsは2000年から2015年に実施されたMDGs（ミレニアム開発目標 Millennium Development Goals）を引き継ぐ取り組みとしてつくられました。

MDGsは、よりよい世界の実現に向け、開発途上国を対象に、極度の貧困や飢餓の撲滅など8つの目標を掲げ、全世界がサポートする取り組みでした。その結果、2015年までにアジアを中心に極度の貧困が半減するなど一定の成果をあげました。

しかし、よりよい世界の実現のためには、途上国の貧困問題だけを考えるのでは不十分で、世界の中で益々深刻化する「気候変動などの環境悪化」、「（途上国発展に伴う）需要増による資源枯渇」、「途上国に限定しない貧困や格差」などの課題に、並行して対応する必要性が明らかになってきました。

● SDGsの特徴

そのような背景から、2016年から2030年までの取り組みであるSDGsは、対象を「途上国の貧困撲滅」に限定せず、「地球上のすべての国々や人々にとっての持続可能な社会の

実現」としている点が特徴です。

目標策定には、各国政府や国際機関のみならず、世界中の市民社会団体や研究者、企業など、多様なステークホルダー（利害関係者）が参加し、世界の社会課題が幅広くカバーされた、17の目標と169のターゲットがつくられました。SDGsの取り組みは、法的拘束力を持ちませんが、各国がSDGsの達成に向けて国内での指針を確立し、定期的に進捗を確認することが政府間で合意されています。現在、国連を中心に、進捗を数値で管理するための世界レベルの指標づくりが進められています。

● 日本における取り組み

2015年9月のSDGsを採択する国連サミットの中で、安倍首相はSDGsに積極的に取り組むことを表明しました。2016年5月20日には、安倍首相を推進本部長とし、全閣僚が参加する「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」が内閣に設置されました。今後、国内外の社会課題について、優先課題を特定した上で、日本が取り組むべきSDGs実施指針がつくられます。



2. 企業が取り組む意義

● 企業に求められていること

企業の創造性とイノベーションは、SDGsの取り組みを進めていく中で、重要な推進力となります。SDGsでは企業が課題解決に向けてそれらを発揮することを求めています。

● 機会の創出と価値の向上

SDGsは各国の将来における政策の方向性とステークホルダーの期待を示しています。よって、SDGsが掲げる課題の解決策を見出し、実現できる企業にとっては、新たなビジネスの機会となります。また、企業の評価、ブランド力を向上させることにもつながります。

3. 日本製紙グループのこれまでの取り組み

SDGsは社会における優先課題を明らかにしたもので、CSRの先進企業にとっては、従来からの取り組みの多くをSDGsの17の目標に結びつけることができます。今後の具体的な方向性については、政府からの指針を待つ必要がありますが、日本製紙グループがこれまで進めてきた取り組みについて、SDGsに分類できるものをいくつか紹介します。

